

岩手県紫波町 東京都日野市  
**姉妹都市盟約締結式**

日野市



姉妹都市盟約書を手にする大坪冬彦日野市長(左)と熊谷町長(右)(提供:日野市)

# 東京都日野市と姉妹都市になりました

町は1月30日、東京都日野市と姉妹都市盟約を締結しました。これは、町の名誉町民である異聖歌の縁がきっかけとなったものです。

童謡「たきび」の作詩者である異聖歌(本名:野村七蔵)は明治38年、当時の日詰町に生まれ、昭和23年から晩年の48年まで、日野市で過ごしました。この縁から、異聖歌を顕彰する町の皆さんと日野市旭が丘地域の皆さんの交流が約20年前から行われてきました。

このような経緯もあり、平成27年10月には大坪冬彦日野市長が来町し、熊谷町長と対談。併せて、オガール地区や産業まつりを視察しました。28年11月には町長や議長、教育長、商工会関係者などが日野市の産業まつりを訪問するなど、行政間の交流も図られるようになりしました。

両市町は、「まちの資源を大切にする」という、目指すまちの姿が一致。また、今後さらに歴史と文化を軸とした相互交流を図っていくことで合意し、姉妹都市盟約の締結が実現しました。

町の姉妹都市は福島県古殿町、オーストラリアのサザン・タウンズ市に続き3例目となります。



日野市と紫波町の間で  
 交わされた姉妹都市盟約書

## 共に発展できる関係を目指して

日野市役所で行われた姉妹都市盟約締結式には、日野市の大坪冬彦市長を始め、西野正人議長や米田裕治教育長など5人と、当町から熊谷町長や武田議長、佐美教育長など4人が参加。報道陣や関係者が見守る中、両首長が姉妹都市盟約書に調印し、友好の握手を交わしました。

姉妹都市盟約締結を契機に、住民同士の深い交流を尊重しながら、行政による友好親善交流を進めることで、両市町に新しい視点や活気を取り入れ、今後の双方のまちづくりを生かしていきます。また、住民同士の幅広い交流に加えて、行政間の歴史や文化、観光、産業、教育などにおける交流や協力関係を構築し、両市町が共に発展できる親交を目指します。



# 異聖歌顕彰活動と交流のこれまで



日野市の旭が丘中央公園に建つ「たきび詩碑」

町では昭和54年、異聖歌がふるさとの情景を詠んだ「水口」の詩碑が紫波運動公園内に建立され、毎年命日には有志の方々による碑前祭が行われています。また、平成8年から、「異聖歌童謡まつり」が実行委員会によって開催されています。

一方、日野市では平成10年、異聖歌の顕彰活動に取り組む住民たちによって「たきび会」が発足。11年4月には、日野市旭が丘中央公園に「たきび詩碑」が建てられました。また18年からは、日野市旭が丘にある商店や会社で構成される旭が丘商工連合会が「たきび祭」を開催。異聖歌をより多くの方々にも知ってもらいたいという思いで始まったこの祭りは、これまで11回行われています。

このような活動の他、「異聖歌童謡まつり」に携わる方々が日野市を訪問し、日野市長や日野市旭が丘の皆さんとの交流を深めたり、日野市の「たきび会」のメンバーが町を訪れたりするなど、住民相互の交流も行われてきました。

## 日野市の概要

昭和38年に市制施行し、東京都のほぼ中央部に位置。工業都市・首都圏の住宅都市として発展する一方で、七生丘陵や多摩川などの豊かな自然にも恵まれています。現在では、先端技術産業が立地し、約18万人の市民が住む自然に恵まれた住宅都市としてさらなる発展を続けています。

新選組副長の土方歳三や六番隊長の井上源三郎、彼らの活動を支えた名主・佐藤彦五郎の屋敷(日野宿本陣)が残されており、「新選組のふるさと」としても知られています。

人口……18万3598人(男9万2268人、女9万1330人)平成29年2月1日時点  
世帯数…8万6277世帯  
面積……27.55km<sup>2</sup>  
市の花…菊 / 市の木…かし / 市の鳥…かわせみ  
特産品…和梨、ブドウ、ブルーベリー、リンゴ、トマト、TOYODA BEER(地ビール)など

## 観光の見どころ

多摩丘陵の地形と自然を生かして造られている多摩動物公園や関東三大不動の一つといわれる高幡不動尊、新選組のふるさと歴史館、都内で唯一残る江戸時代に建てられた本陣建物日野宿本陣など、たくさんの観光名所があります。



日野市



日野宿本陣(提供:日野市)



高幡不動尊境内にある土方歳三像(提供:日野市)